

井水設備

川から取水した井水は、1階機械室内ろ過設備を経て、井水受水槽に貯留後、加圧ポンプで各所に送っています。井水受水槽容量39m³（通常使用で半日分の容量、災害時の制限使用で3日分の容量）。

排水設備

公道部下水本管が破損したなどで建物からの污水放流ができない場合は、地下ピットに設置している污水槽にいったん貯留できます。受水槽容量26m³（通常使用で半日分の容量、災害時の制限使用で3日分の容量）。

エレベーター(EV)

EV昇降路内に設置した地震感知器で地震を感知した場合、EVは最寄り階に移動し(停電になると、EVに内蔵したバッテリーを使用し)停止します。

医薬品の備蓄について

薬品の備蓄については通常使用する薬品の1

週間分を保有していますが、非常時には薬品卸業者が2週間分の薬品を保管しており、共同の配送車も所有しています。

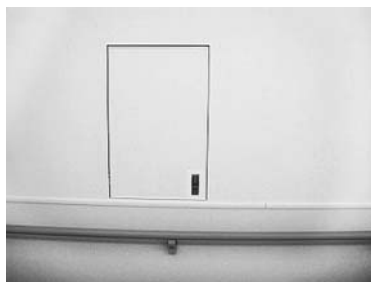
食料の備蓄について

病院内の給食などの食料の備蓄は多くはありませんが、地元医師会会員相互の緊急時の給食支援体制協定を締結しています。また町では地元の量販店2社と災害時における物資供給について協定を締結しています。しかし、交通網の遮断が考えられ、その間は備蓄で対応しなくてはなりませんので、できるだけ早期の交通手段の回復が望まれます。

その他

病院1階外来待合は、災害時にはトリアージエリア（トリアージ：多数の負傷者がでる災害や事故などのときに、医師や救急隊員などが患者を選別し、治療の優先順位をつける行為）として利用し、簡単な傷の処置などや、簡易ベッドを設置できるようになっています。

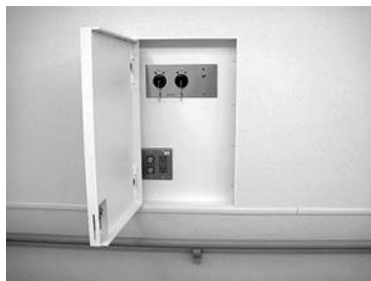
隠蔽式メディカルユニット 1階 外来待合に設置



酸素供給ユニット



非常電源コンセント



吸引ユニット

以上のような病院機能を備えています。

実際の地震災害発生時には病院の「防災マニュアル」に沿って、速やかに院内に対策本部を設置し、地震や被害状況などの情報収集し、医療継続の可否を判断し、可能なら実際の医療救護活動、トリアージ活動（人材・資源の制約の著しい災害医療において、最善の救命効果を得るために、多数の傷病者を重症度と緊急性によって分別し、治療の優先度を決める行為）などを開始します。医療救護活動に関しては次回に紹介させていただきます。